

介護保険の構造的問題 国を訴え

登録ヘルパー

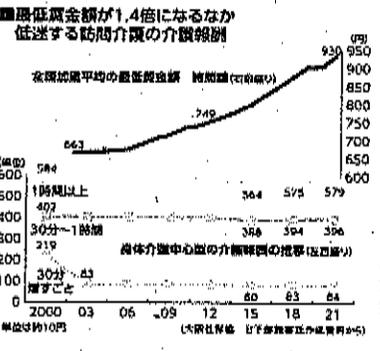


【東京10日】介護保険の構造的な問題について、国を訴える訴訟が相次いで提起されている。ヘルパーの不足や報酬の低さ、サービスの質の低下などが問題視されている。訴訟は、ヘルパーの待遇改善やサービスの充実を求め、国を相手取り提起されている。

ヘルパーは介護現場で重要な役割を果たしているが、その待遇は他の職業に比べて低い。また、サービスの質も課題となっている。訴訟は、ヘルパーの待遇改善やサービスの充実を求め、国を相手取り提起されている。

ヘルパーの不足や報酬の低さ、サービスの質の低下などが問題視されている。訴訟は、ヘルパーの待遇改善やサービスの充実を求め、国を相手取り提起されている。

移動・待機 ほとんど無給 最低賃金割れ



訪問介護の報酬が最低賃金を下回るという事態が起きている。ヘルパーは移動や待機の際にほとんど無給で働くことが多く、最低賃金を割るという状況にある。これはヘルパーの労働環境を悪化させていると訴えられている。

ヘルパーは移動や待機の際にほとんど無給で働くことが多く、最低賃金を割るという状況にある。これはヘルパーの労働環境を悪化させていると訴えられている。



不当な裁判員に抗議し、法廷の前で座り込み行動をしたヘルパーたち。2022年11月、東京地裁前。

社会保障費抑え 報酬削減 違法放置

介護報酬の削減が違法であるにもかかわらず、国はこれを放置している。社会保障費を抑えるために報酬が削減されているが、これはヘルパーの労働環境を悪化させていると訴えられている。

ヘルパーの労働環境を悪化させていると訴えられている。ヘルパーの労働環境を悪化させていると訴えられている。

ヘルパーの労働環境を悪化させていると訴えられている。ヘルパーの労働環境を悪化させていると訴えられている。

1/10 10.10